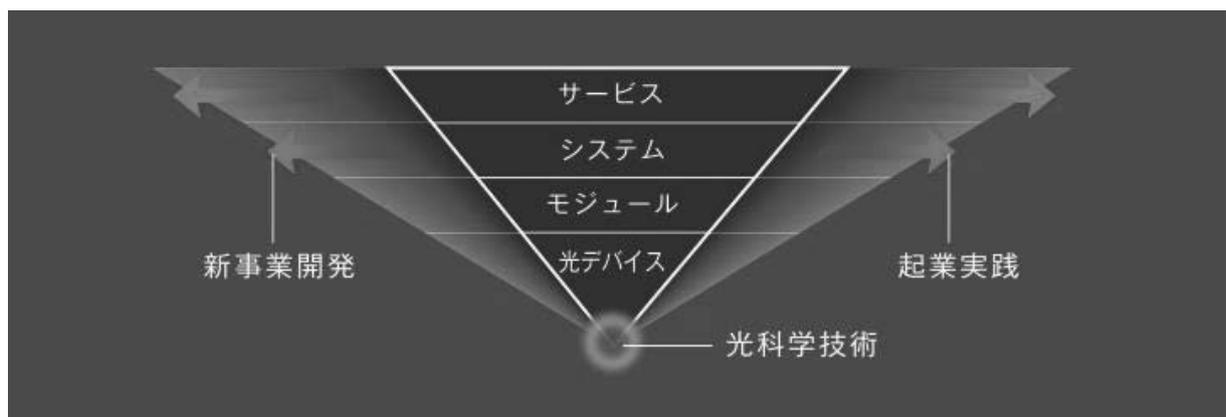


イノベーションネットアワード
2020

光技術の応用で新しい産業を



通常の産業が最終製品の生産を頂点に多くのメーカーが層を成す「ピラミッド型」です。一方、光技術を応用する産業は、先端光技術を原点に、医療、バイオ、農業、エネルギー、情報、加工など幅広い産業領域に新たな展開を生み出す「逆ピラミッド型」で、その応用領域は日々広がっています。弊学は、「逆ピラミッド」の角度、すなわち光技術の応用領域を扇のように大きく広げ、産業界への貢献をめざしています。

実践を通して「光」の起業家・事業化を育成

学則第1条

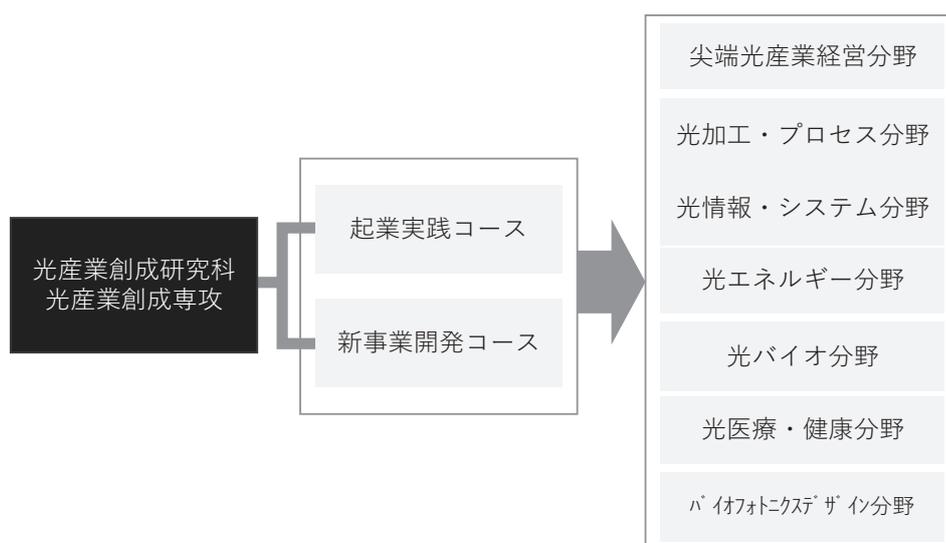
光産業創成大学院大学は、光と生命体、物質、情報等とのかかわりに関する学理と知見を基礎に置きつつ、光の発生、変換・制御、利用に関する最先端技術を駆使し、光の各種機能を連携・融合、さらにそれらの技術と経営の融合に関する研究開発を教授研究し、その深奥をきわめ、新産業を自ら実践しうる人材養成を行うことを目的とする。

- ・2005年4月開学
- ・博士後期課程（3年課程）、光産業創成研究科光産業創成専攻
- ・起業実践コース・新事業開発コース　・入学定員：10名　・総定員　：30名

弊学は、『今世紀における光技術の重要性を認識し、光技術を使った日本発の新しい産業を創成するために、社会が求めるニーズをもって新産業創成を志す人材を養成する』という初代理事長の思いから、光技術のリーディングカンパニーである浜松ホトニクス(株)が中心となって設立された博士後期課程の大学院大学です。

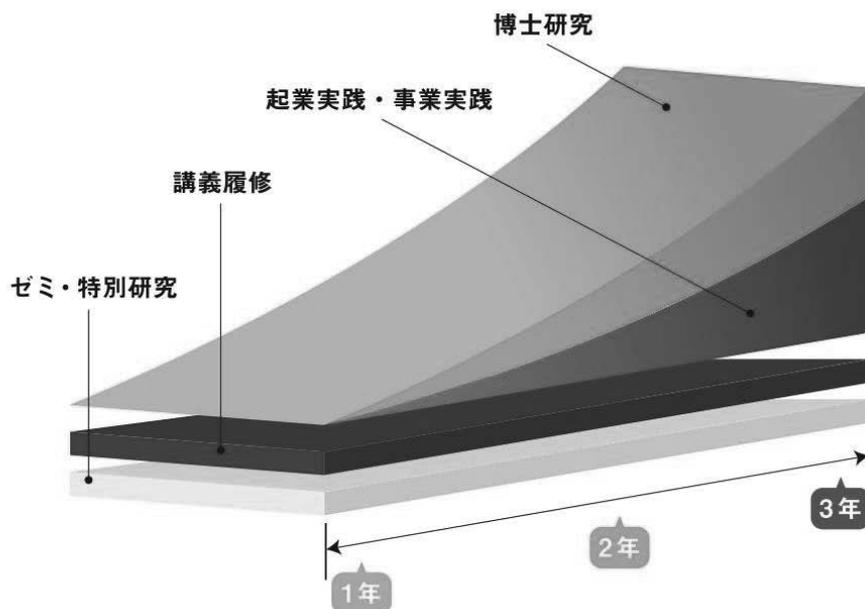
これから事業を起こそうという起業家、中小企業の経営者、会社の中で新たな事業を行おうとする事業担当者を学生として受け入れ、各々のビジネスプランの実現とそれを反映した博士号の取得を、教員・職員がバックアップしています。標準3年課程で入学定員10名総定員は30名で、学生の平均年齢は40代前半で全員社会人です。

カリキュラム



学生は、自身や所属企業の事業をテーマにしたビジネスプランで入学試験に臨み、入学後に作成・発表する博士研究計画を基に経営系1分野、技術系6分野のいずれかに所属します。

3年間の流れ



3年後期

博士研究と事業実践の成果をまとめて学位論文を作成し、学位審査に臨みます。

2年・3年前期

それぞれのビジネスプランに沿って、博士研究(光技術研究開発、光技術関連製品や事業の開発、光産業創成に向けた研究など)を進めます。また、事業実践(法人設立、市場調査、市場開発、市場開拓、商品開発、知財戦略、マーケティング戦略等)を進めていきます。

1年後期

講義により実践的知識体系を補完します。学んだことを活かし、博士研究と事業実践を進めていきます。

1年前期

講義により技術と経営の専門的な基本知識を習得します。また、入学時のビジネスプランに基づいた博士研究の計画と事業実践の行動計画を立てます。

入学後は、経営や光技術の講義を受講しながら、目の前の課題解決と同時に10年先の事業をつくるために新しい技術と新しいビジネスを模索・実践し、その成果を研究論文にまとめ博士号の取得をめざします。

大学の制度を利用すれば、3年分の学費で最長6年間在学が可能、また、条件を満たせば2年での早期修了も可能です。

講義科目 経営系と技術系が学べる

I類 経営系 8科目	経営理論、マーケティング	経営学総論
	財務会計、管理会計	企業会計特論
	マーケティングの実践、商品企画書作成、VCによる評価	マーケティング実践演習
	ビジネスモデルと密接に関係した知的財産戦略の演習	知財戦略特論
	経営戦略論、コーポレート・ファイナンス	経営戦略とファイナンス
	事業を展開していく上で必要な能力の涵養	ビジネス・プロデュース特論
	ビジネスプランのブラッシュアップ	光産業創成論
	医療・バイオ機器等の製品開発と事業化のためのデザイン思考	バイオフォトリクスデザイン特論
II類 技術系 11科目	光の性質、数学的表現・取扱、本質の理解、波動・幾何・電子光学、相対論・素粒子論から見た光	光学総論
	光と物質の相互作用、光物性、レーザー等光デバイス、レーザー工学、物性論、非線形光学レーザー対応	フォトリクス特論
	基盤技術、光源、光検出器、光学素子、光学・機構設計、回路技術、システム制御、計算機処理	光システム工学特論
	質量分析、MALDI	光医療・健康特論
	生体工学、生体光学、医用画像工学、神経科学	光生体工学特論
	バイオテクノロジー、生命倫理、私物多様性	光バイオ工学特論
	レーザー加工(溶接、表面加工、除去)、レーザー科学	光加工・プロセス特論
	レーザー核融合、レーザー粒子加速器、太陽光発電	光エネルギー工学特論
	干渉計測、分校計測、ホログラフィー、光情報処理	光計測センシング特論
	解剖学、生理学、病理学、医療倫理、医療安全	光医工学特論
	光と生物・環境・農業・医療、生体分子分析、バイオイメージング、遺伝子操作	バイオフォトリクス工学特論

時間割

前期 4～7月	月	火	水
9:30-11:00	光バイオ工学特論	光生体工学特論	光医工学特論
11:10-12:40	光システム工学特論	フォトンクス特論	バイオフォトンクスデザイン特論
13:40-15:10	光学総論	経営学総論	
15:20-16:50	マーケティング実践演習 (隔週)	企業会計特論	
17:00-18:30	ビジネス・プロデュース特論(隔週)		

後期 10～1月	月	火	
9:30-11:00	光加工・プロセス特論	光エネルギー工学特論	赤字：必修 青地：選択必修 黒字：選択
11:10-12:40	光医療・健康特論	光計測センシング特論	
13:40-15:10	バイオフォトンクス工学特論	知財戦略特論	この他、全体で行うゼミナールと、所属分野で行うゼミナールがある。
15:20-16:50		経営戦略とファイナンス	
17:00-18:30	光産業創成論(隔週)		WEB会議システムで受講可能

支援体制

学生の「事業プランの実現」と「学術的な成果」のため、学生の研究活動・事業活動の内容に応じて、学生1人に対して、技術・経営、学術・事業の4つのカテゴリに複数の教員がかかわり、サポートしています。

	技術	経営
学術論文指導	<ul style="list-style-type: none"> 光技術の研究開発 新しい光技術の研究 光技術の新しい応用の研究 	経営組織、経営戦略、事業開発に関する研究
事業実践支援	<ul style="list-style-type: none"> 光技術関連の技術開発、製品開発 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング 製品開発・事業開発 知財戦略 販路開拓 広報活動

教員

経営・バイオ・医療・光計測・レーザーの専門家達（専任教員15名、特任教員5名、他客員教員24名）で構成され、自身の研究活動と並行して、学生の研究指導とその技術開発・事業化に向け二人三脚で取り組んでいます。



実践を通して「光」の起業家・事業家を育成

瀧口 義浩 学長

光の基礎研究を35年続け、今も光の未知に挑み続けています。光計測の革新技術を提供できるよう、日々、学び続けることが必要と考えています。



光（レーザー）加工の産業応用を支援

坪井 昭彦 副学長

生産技術者としてのこれまでの経験、自らの創業・起業体験を基に、地域企業や起業を目指す学生諸氏の伴走者として、その事業推進を支えます。

尖端光産業経営分野

光による創業を目指して

ビジネス（起業・新規事業開発・マーケティング・ファイナンス）を通して得られた「知」を基底に独自の現場理論の構築を目指す

未来を発見＝構成する組織の研究＝マネジメントの実践

増田 靖 教授

【博士（経済学）】言語経営学（「語り」による経営）を基底に、未来を発見＝構成する組織の研究＝マネジメントの実践、事業・産業創成の研究＝実践。



マネジメントの視点からイノベーション創出を支援

姜 理恵 准教授

【博士（経営管理）】企業と市場・人と組織にイノベーション創出を促す経営戦略・財務戦略の研究を通して社会科学の可能性を探求しています。



光技術のシーズ・ニーズを融合し、新産業創成を目指す

宇佐美 健一 特任教員

【修士（経済学）】世の中に新しい価値を創造するためには、その創造に関与するステークホルダーが事業翻訳者の役割を果たす必要があります。そこに何が必要かを研究しています。



明日の医療・健康を支える「未知未踏」への挑戦 光技術を基盤としてQOL(Quality of Life)の高い社会実現とビジネス展開を目指す

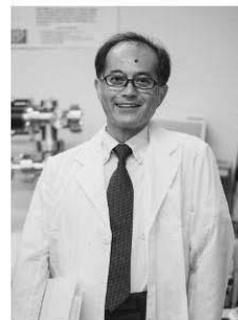
光医療・健康分野



光による生体計測と、脳研究分野への応用展開

江田 英雄 教授

【博士（工学）】生体医工学会のINIRS計測・解析技術研究会会長、ISOの国際convenerとして活動中。起業した（株）フォトニクス・イノベーションズは14期目。



光技術と質量分析の融合で新産業の芽を創出

内藤 康秀 准教授

【博士（工学）】現代の科学や幅広い産業分野を支える基盤技術であると同時に、それ自体が科学の一分野でもある『質量分析』を研究しています。

光バイオ分野

光で生命現象を解明・制御

光技術・タンパク質工学技術・ナノバイオサイエンス技術を駆使し、ライフサイエンス分野で有用な技術の創出を通して、産業分野へ貢献



光を利用して生命現象を可視化・計測

横田 浩章 准教授

【博士（理学）】光学顕微鏡を開発してミクロな生命現象を可視化・計測しています。企業と微弱光検出器のバイオ応用の共同研究を展開しています。



光を利用して生命現象を計測・操作

平野 美奈子 講師

【博士（理学）】タンパク質の働きを計測・操作する技術の開発と、これらの技術の創薬・農業分野への産業応用に取り組んでいます。

ライフサイエンスの知見を
総動員して事業展開をサポート

横田 浩章 准教授 (兼任)

課題発見型イノベーションを創出する
エコシステムの実現を目指す

内藤 康秀 准教授 (兼任)

光技術で
新規診療機器
創成!

袁島 伸生 特任教授

[博士(理学)] 失明疾患の原因遺伝子を遺伝学的手法で解析継続中。浜医在籍時よりバイオフォトニクスデザイン分野始動に参画。GPIと医師の“繋ぎ”を積極的に進めます。



光半導体センサ技術をベースに、新たな
社会ニーズに挑戦

水野 誠一郎 特任教授

40年あまり、医療や産業向けセンサの半導体回路開発などに従事しました。ビジネス経験を基に新たなニーズに活かす研究を行います。



光で環境に貢献する
光のエネルギーをもって地球環境の向上に貢献

光エネルギー分野

光のエネルギーを
宇宙で、
地上で利用

藤田 和久 教授

[博士(工学)] 高出力レーザーの産業応用をテーマとし、光エネルギーと物質の相互作用を基礎に、社会ニーズに合う研究開発に取り組んでいます。



光(レーザー)に
よる核融合
エネルギーの創出

森 芳孝 准教授

[博士(工学)] ハイパワーレーザーを用いた光によるエネルギー創成(レーザー核融合)と利用研究(レーザープラズマ加速とレーザー材料改変)。



光情報・システム分野

光を操り、情報を捉える

ものづくりに貢献する高速・高精度計測技術の研究と、それらを実現する光システムの開発を通じ、新産業創成を目指す



見えない
モノを
可視化する

石井 勝弘 教授

[博士(工学)] 幅広い産業分野のさまざまなニーズに対応可能な光計測、特に、光散乱計測と光干渉計測の研究をしています。



光で測る、
探る

花山 良平 准教授

[博士(工学)] 光の波としての性質を用いた精密計測技術や、金属の中を見通す中性子非破壊検査技術により新産業分野を切り拓きます。

1兆個センサー時代の
IoT サービスの
創造を目指す

北山 研一 特任教授

[博士(工学)] 長年培ってきた通信ネットワークの知見と光センシング、クラウドを融合して新たな IoT サービスの創造を目指しています。



光で感じる。
光ファイバー
センサー !!

林 寧生 特任助教

[博士(工学)] 未来の社会基盤の形成に貢献する光ファイバー中の「非線形光学現象」を利用した光ファイバーセンサーや新規デバイスの研究をしています。



光プロセスで付加価値を創造する
 レーザーなどの先進光源を用いて、これまでにない加工技術の開発や、ニーズに沿った加工装置開発を行う。
 その他、レーザー光源開発や、医療デバイス製作に取り組む

ファイバー
 レーザーによる
 付加価値創造を

長谷川 和男 教授

【博士(工学)】 学術研究の本質を理解し、ファイバーレーザーの高機能化による付加価値創造を推進し、産業界への貢献を目指します。



光(レーザー)加工の
 導入から
 応用利用まで対応

沖原 伸一郎 准教授

【博士(工学)】 ものづくりや医療応用に向けて、レーザー加工(表面処理)やレーザー生成プラズマについて実用化研究・開発をしています。



レーザー加工技術と
 分光計測技術の融合に
 よる高度な産業応用へ

楠本 利行 助教

【博士(理学)】 ものづくり技術の中でも 0.1mm 以下の微細な空間の精密加工を得意とする超短パルスレーザー加工に関して研究しています。

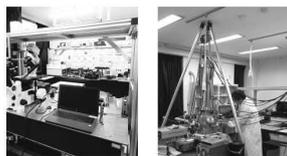
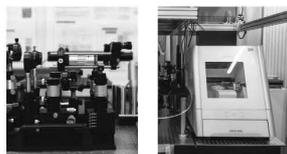
施設・設備

各種レーザー・電子顕微鏡など研究設備の利用、
 インキュベーションルーム(個室)の無償貸与、
 来客・打ち合わせ等で会議室を利用できます。

実験室・試作支援室(研究棟A・B1階)

各技術系分野の専門の機器を備えた実験室があり、博士研究での研究・技術開発を進めることができます。また、走査型電子顕微鏡や分光光度計、3Dプリンターなどの共同利用機器が設置された共同実験室があります。試作支援室では、簡単な電気工作や機械工作ができ、思いついた技術的なアイデアをすぐに試すことができます。

実験室 11室 共同研究室 1室 試作支援室 1室



大講義室(本館1階)

全体セミナーや博士論文の公開審査会など、全学的な活動に使われます。



大会議室(本館1階)

講義やセミナーなどに使われます。

起業ルーム(研究棟A・B2階)

起業時の会社事務所として使用でき、本店登記も可能なインキュベーション施設です。全26部屋。



展示エリア(本館1階)

起業学生や教員の研究、本学主催事業(レーザー加工人材育成)の最新情報が展示されています。



交流エリア(本館1階、研究棟A・Bサロン)

リラックスした交流の中で新たな発想を、吹き掛けの開放的な空間を創発の場として提供しています。

附属図書館(本館1階)

光技術やビジネスなどに特化した専門的な書籍から一般的な本まで、およそ1,700冊を所蔵しています。



情報・メディアセンター(本館2階)

共用パソコン、光学設計・CAD・企業会計・ホームページ作成支援ソフト、ポスター作成用大型プリンタが活用できます。

光産業創成大学院大学キャンパス

浜名湖畔の小高い丘の上にあり、奥から本館、研究棟A、研究棟B、手前側(写真外)に駐車場があります。



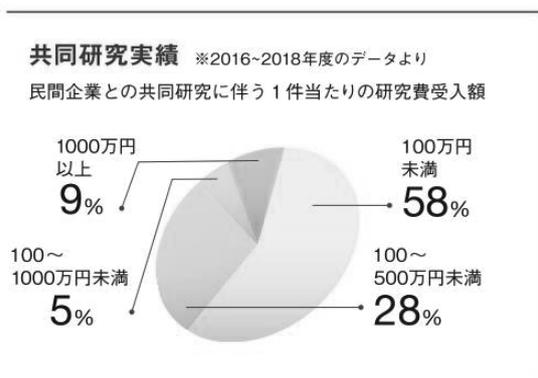
各種サポート

設 備	施 設	知財戦略
本学保有の装置利用 ・各種レーザー装置 (フェムト秒レーザー、ファイバーレーザー) ・走査型電子顕微鏡 ・分光光度計 など	インキュベーションルームの 無償貸与(約15平米) 会議室の利用	特許調査・出願のサポート
情 報	資 金	技術・経営
データベース利用 ・SPEEDA ・マーケティング・データバンク ・日経テレコン21 書籍文献検索	展示会共同出展 各種助成金共同申請 研究活動費支援 給付型奨学金	教員の人脈を活かした販路開拓 ヒアリング同行 教員が指導・助言 学術的意義づけ 共同研究等で修了後も継続支援

知的財産権に関する戦略・調査・出願サポート、市場調査用のデータベース利用、展示会出展、奨学金制度等、ニーズに応じて支援。さらに、各種助成金申請のサポートや大学との共同申請による資金調達、教員の人脈を活かした販路開拓、ユーザーへのヒアリング同行などを実施しています。また、学生が所属する企業の幹部や上司等と緊密に連携し、修了後も共同研究を行うなどして継続して事業化支援に携わっています。

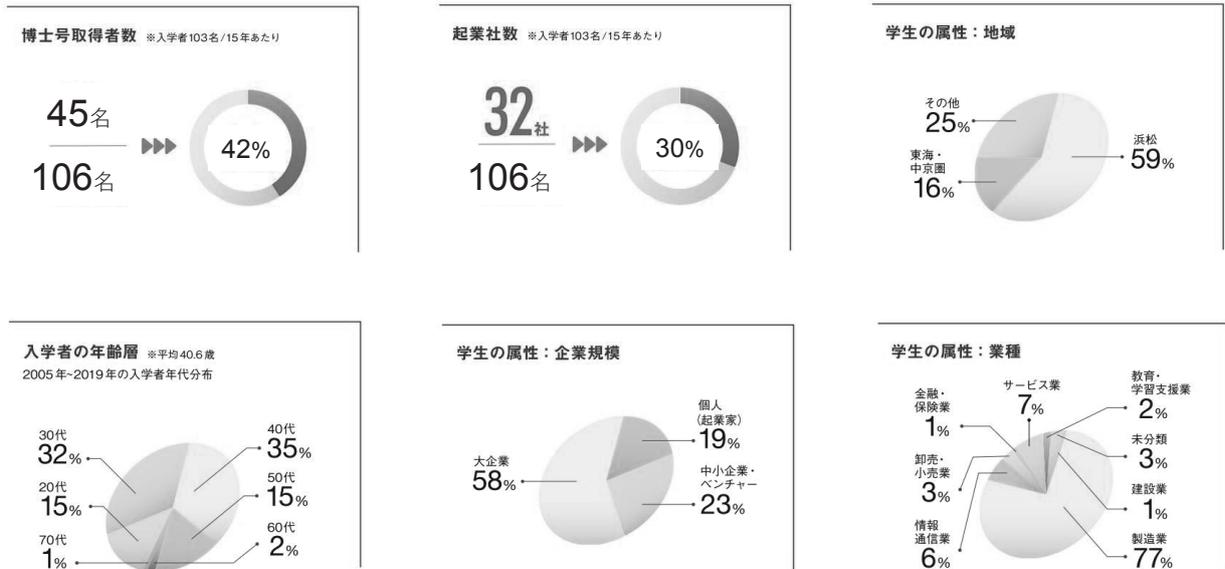
地域との連携

- ・ 浜松光宣言2013 静岡大学、浜松医科大学、浜松ホトニクス、弊学
- ・ 連携機関 静岡県、浜松市、浜松商工会議所、静岡県産業振興財団、
浜松地域イノベーション推進機構・フォトンバレーセンター、
静岡銀行、浜松いわた信用金庫、遠州信用金庫
- ・ 海外連携 ドイツ、イエナ・ベルリン・アーヘン・ミュンヘン
- ・ 民間企業との共同研究



弊学が主催するレーザー加工の導入・実用化を推進できる人材を育成する「レーザーによるものづくり中核人材育成講座」(2008-2010年度に経済産業省の委託事業)の実習会場の提供。中小企業の課題解決のための相談対応、サポイン事業等で相互に連携・協力。産学官金連携プログラム(A-SAP)における中小企業の技術課題解決の研究機関として連携、協力するなどしています。また、地域の企業との共同研究も行っています。

活用例



2005年4月開学以来延べ109名が学生として弊学に入学しています。
 2020年5月現在、在學生は33名。博士（光産業創成）取得者45名。学生・OBが立ち上げたスタートアップ企業数32社、弊学に入学し事業化に取り組んでいる企業の経営者層は20名を数えます。地域毎の内訳は浜松地域が63名、東海・中京圏が18名、その他全国が28名です。また、個人入学してくる起業家21名、中小・ベンチャー企業の経営者等27名、大企業からの派遣61名です。業種は多岐に及んでいます。

実績

生産現場における作業者の注意喚起用として高指向性、光パターン形成LED照明装置が急速に需要を伸ばしているベンチャー企業、溶接業からレーザーヘッド開発の新事業を立ち上げた中小企業や、光学機器微弱光検出技術を活用して近赤外生体モジュールセンサーを開発したベンチャー企業等があり、日本の製造業を未来へとつなぐ担い手として、VCやメディア等からも広く期待されています。

売上増加額	585,166,000円対象期間：2005年度～2018年度
雇用増加数	48人対象期間：2005年度～2018年度

2005・2006・2008年度に弊学に入学したOBが設立し代表を務める企業4社の売上増加額と雇用増加数について、帝国データバンク、東京商工リサーチの企業情報より集計。

受賞

- 2015・2016年度 JST大学発ベンチャー表彰「特別賞」
 弊学発スタートアップ企業パイフォニクス(株)、ジーンアルライト(株)との共同受賞
- 2016年度 一般財団法人機械振興協会新機械振興賞「審査委員長特別賞」
- 2018年度 レーザー学会産業賞「貢献賞」(レーザーによるものづくり中核人材育成講座)

活躍する 同窓生たち



01

池田 貴裕 Takahiro Ikeda

パイフオニクス株式会社 代表取締役
(2006年入学 博士(光産業創成))

自分の研究成果を
自分の手で事業化したい

私は、社会人になる当時から抱いていた「自分の研究成果を自分の手で事業化したい」という夢を実現するためにGPIは格好の場所だと思い入学することを決めました。入学半年後に起業、その1年後に現在の主力製品の基盤となる高指向性LED照明装置「ホロライト」を発明。大学院修了時までに、会社経営・技術開発・製造管理・広告営業・資金調達・税務会計・法務契約・総務労務などの数多くの経験により、ゼロから会社を立ち上げていく術を覚え、見えぬ未来に向けて踏み出していく勇氣と、夢や希望を持つ重要性を身につけて起業家精神を醸成できたと感じています。

人生とは経験に基づいた運命と
夢や希望で変わる未来がある

大学では形式知のみではなく暗黙知を習得することに大きな意味があります。会社経営におけるさまざまな経験は暗黙知を高めてくれます。私の哲学は「人生とは経験に基づいた運命と夢や希望で変わる未来がある」です。人生は過去と現在と未来で構成されると考えています。つまり過去の経験に基づき、現在までの運命が決まっています。一方、未来は夢や希望により変えることができます。この考えを持つことにより過去、現在、未来における運命に対して何事でも受け止めることができるようになり、前向きに物事を考えることができるようになります。起業実践は簡単ではありません。大きな夢を持ちながら、目の前の解決すべき課題を一つ一つ乗り越えていくことにより、新しい未来が待ち受けていると考えています。

光応用産業の創成を目指し、
人類に新しい生き方と文化をもたらす

活躍する同窓生たち

02

豊澤 一晃 Ikko Toyosawa

株式会社トヨコー 代表取締役
(2008年入学)

塗装業の限界を感じて、
レーザーの世界へ

父親が創業した株式会社トヨコーに2003年に入社し、事業所向けの特殊防水工事を主に請け負っていました。しかし、先行きを危ぶみ、オンライン商材で全国展開可能な屋根の塗装防水工法を独自に新規開発。その後、会社を長期的に成長させるため、新たに海外展開可能な商材の開発を目指してレーザーに着眼しました。県内の中小企業支援団体からレーザー技術に強い本学の紹介を受け、ほどなく入学を決めました。

入学後、6年間、週1で通い続け、レーザーを照射して、橋梁などの劣化した塗膜やサビを溶解・蒸散させて除去する新工法「CoolLaser(クーレーザー)」をカタチにすることができました。

レーザーによる表面処理の
標準化を実現

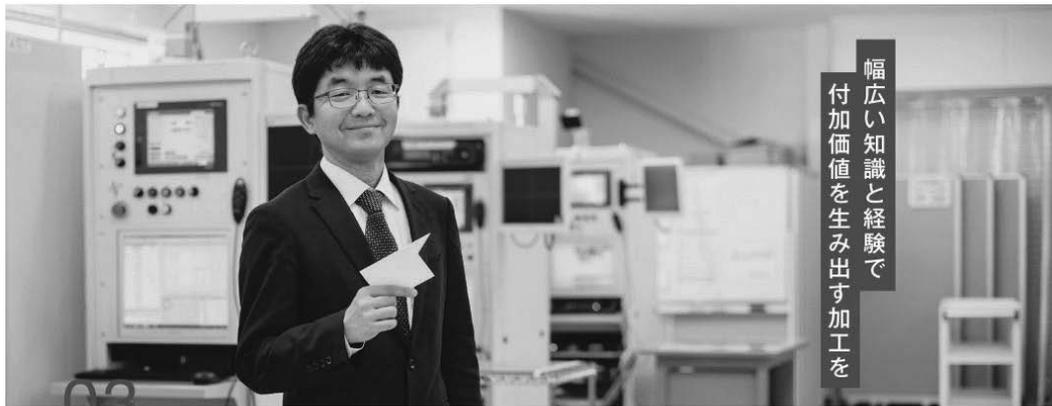
いわゆる“塗装屋”というイメージを変えたいと思い、新規事業の開発をしてみました。2019年には、日本産業規格JIS Z 2358「レーザー照射処理面の除せい(錆)度測定方法」の制定をGPIとともに実現しました。経産省の新市場創造型標準化制度という中小企業の尖った技術を標準化するサポートのお陰です。最近では、安全な工事を実現する新たな標準化にも取り組み、国内市場の形成と世界へ羽ばたく準備を進めています。

「キレイに、未来へ」が弊社のミッションです。未来を作っていくのが私の役目。GPIとともに次のステージを作ります。

業態転換を促す新工法の開発
第二創業者として、「キレイに、未来へ」



活躍する同窓生たち



03

刀原 寛孝 Hiroataka Katanahara

株式会社ナノプロセス 代表取締役 (2006年入学)

当社のレーザー加工技術は他社があまり行わないセラミックス、樹脂、ガラスなど難加工材料を得意とし、付加価値を生み出す加工業務を行っています。求められる材質や大きさ、加工形状もさまざま、幅広い知識と経験が必要です。このため、レーザー加工の前に材料を知ることが念頭に開発・事業化を行ってきました。

元々レーザー技術についてはGPI入学を機に勉強を始めビジネスプラン作成などを経て起業しました。最初の数年間は受注量の伸び悩みやリーマンショックなどの波にもまれ厳しい時期が続きました。設立7年目くらいから、ようやくノウハウの蓄積や顧客の要求を満たすことが出来るようになり、顧客は北海

道から九州まで日本全国に広がり、社員は役員を含め現在10名まで増員し、自社保有設備も12台まで増強されました。

レーザー加工は万能ではありません。このツールを生かすためにも、競合となる他工法について調査し何で困っているかの解決策を提案するような提案型の営業で受注を獲得しています。

活躍する同窓生たち



04

内山 文宏 Fumihiro Uchiyama

株式会社内山刃物 代表取締役 (2013年入学 博士(光産業創成))

入学の理由は「サポインの採択を受けたかったから」です。サポインとは「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」に基づく中小企業支援施策です。GPI入学と同時に大学教授と議論を重ね、研究開発テーマを「新しい工具を作るための新技術開発」とすることで、入学から10ヶ月後の2014年8月

に念願のサポイン採択を果たしました。社長の仕事として新しい市場を見つけることにより、従来、樹脂用切削工具が主軸の事業だった同社を様々な材料を同時に加工できる複合材加工用ダイヤモンド工具の製造へと転換してきました。レーザーを使ったダイヤモンド工具の製造方法を確立できた現在、私の次な

る目標は、製造業の海外移転の増加を見越し、製造より川上の開発局面に貢献する工具を開発することです。

GPIにて学位を取得したことにより、社内における試作・検証インフラの整備、開発力向上のための社内人材の育成に取り組み新規の事業開発に注力しています。

活躍する同窓生たち



05

武田 到範 Yukinori Takeda

株式会社日本スポーツ科学 取締役副社長 (2011年入学)

所属会社で使用していたスポーツビジョン(動体視力等)のトレーニング用測定機器が製造中止になり、困っていたところGPI教員と出会い、入学を決意しました。

入学後、光計測が専門のGPI教員と組んで研究を進めることでオリジナルの装置を開発できたことは競合他社との差別化につながりました。さらにゼミや先生方から多角

的にアドバイスをいただき、ビジネスモデルのブラッシュアップをすることができました。開発面だけでなく、商標登録や特許などについても指導いただけたことはGPIに入学したメリットです。

卒業後も先生との関係は継続していて、新たな装置開発のための補助金獲得に成功するなど、現在でも事業開発に役立っています。

学生・OBの声

Q7 技術と経営の融合

技術と経営分野の両方を学ぶことが、自身の実践的な活動(起業実践・事業実践等)に役立つと感じていますか？

Yes **95%** No **5%**

Q1 光技術習得

事業化に適した光技術をGPIで習得していますか？

Yes **74%** No **26%**

Q2 博士号取得

博士号取得を意識していますか？

Yes **88%** No **12%**

Q3 自己成長

GPIに入学して感じた自己の成長能力ランキング

- No.1 専門知識力
- No.2 実行力
- No.3 プレゼン能力
- No.4 マネジメント能力

Q6 ハンズオン支援

GPIによるハンズオン支援ランキング

- No.1 技術開発支援
- No.2 販路開拓支援
- No.3 助成金獲得支援
- No.4 法定定支援

在学生・同窓生の103名にアンケートを配布、
回答をいただいた42名の声を集計しました！

Q5 事業実践

事業実践に求められる経営分野の知識をGPIで習得していますか？

Yes **93%** No **7%**

GPIを利用して試作品や新商品を開発していますか？

Yes **69%** No **31%**

Q4 起業実践

GPIから得ている企業実践に必要な要素ランキング

- No.1 人
- No.2 ネットワーク
- No.3 金
- No.4 技術・機器

100年後、1兆円産業をめざして



近年は、入学者数に占める起業家の割合の減少が課題の一つとなっていて、光の応用産業を担う新たな人材発掘を目的に、2019年度に初めて弊社主催でビジネスプランコンテストを行うなど、新たな取り組みを行っています。今後、100年大学を存続させれば、1000人の修了生が輩出されます。その修了生達が経営する企業群の年間平均10億円売り上げ、1兆円産業になるよう、今後もスタートアップ・中小企業を支援していきます。